

最近の旅行から



江藤 ヤエ子

一、佐渡の旅

五月二十四日、旅の友・森佐和子様と阪急のツアーに参加して佐渡に行った。私は十六年ぶりである。その時は秋で、島では柿の実が赤く色づいていて、バスガイドが「これから、皮を剥いて干し柿作りです」と、説明していた。今回は初夏なので柿の実も余り分らなかった。

新潟港から、高速船ジェットfoilで島に向かうと約一時間で両津港に着いた。そこからバスで相川に移動、加茂湖温泉吉田屋に

泊まる。海の見える室で寛いだ。一行、二十九名の中で八名だけがこの宿だった。

二十五日、七時から朝食を済ませ、九時発で尖閣湾揚島遊園に行く。北欧のような景色だった。それから、佐渡金山に入る。江戸幕府の財政を支えた栄光の史跡である。前に見たよりも見学コースの人数が増えていた。江戸時代には、罪人がここに送られて来て、働いたのだと思うことだった。

次に小木港に行き、たらい舟に乗った。たらいを自分で漕ぐという女性がオールを船頭さんから受け取っていたが、舟はぐるぐる廻るだけで進まなかった。私達が乗った舟の船頭さんが、「一ヶ月は訓練しないと船頭にはなれません」と話した。

舟から降りて、佐渡歴史伝説館に行く。八百年前の佐渡を再現してあった。私は、前の時には、好きになった男性にたらい舟で会い

に行ったのだと聞いたようだったが、資料によると、命を助けてもらった猫が人間に化けて飲み屋で踊りを踊り、金を稼いで恩返しをしたとあった。猫も化け猫の話が多いので、良い話だなと思った。

昼食は「夕鶴」で郷土料理の豪快な沖汁を食べた。日本庭園も美景で見学もした。

尾畑酒造に行き、「真野鶴」の蔵元を見学した。それからトキの森公園に行き、トキを眺めた。前に来た時には、中国から来たトキを飼い始めた頃で、番がらから増やすことに力を入れていたが、今では家族が増えて管理員も安心の様子だった。

その夜は佐渡加茂湖のホテル万長に泊まる。ここも、室の窓からは海が見えて、散歩している人も見えた。ホテルの裏が海岸なのだが、散歩に行く元気はなくて部屋で寛いでいた。

その日は、私の誕生日だった。海外旅行な

ら、添乗員がツアー客にケーキをおごり、全員で祝ってもらえるのだが、日本では、自分で祝うしかないのだった。

夕食後、ロビーで民謡踊りがあるとのこと。早めに見に行き、椅子に座っていた。仲居さんが五名で五曲の踊りをされた。前に来た時には、バスの運転手も美声で歌を披露していたから、音痴の運転手は務まらないなと思ったのだった。

二十六日、ホテル発、八時四十分で、先ず、大野亀に行き、日本では山形と佐渡にしか生息しないというトビシマカンゾウを見学し、日本三大巨岩の一つである一枚岩を見た。その後、佐渡の味いちばで、海鮮丼の昼食。両津港からカーフェリーで新潟港へ。約二時間半かかったので、私は座敷に足を伸ばして寝ていた。バスで約一時間半、村上市の瀬波温泉の汐見に泊まる。



佐渡の尖閣湾揚島遊園にて。2016年5月25日



弥彦山（新潟県西蒲原郡弥彦村）にて。2016年5月27日

二十七日、ホテル発七時四十分で、弥彦神社に行く。ロープウェイで登り、越後平野を一望した。少し曇っていたので遠くまでは見えなかったが、ホテルを出る時には雨が降っていたから、やんだだけでも嬉しかった。

寺泊に移動して、魚のアメ横と呼ばれる市場通りを散策した。それから中央水産で昼食。高級魚ノドグロを食べた。綺麗に身をほぐしている人がいて、私の食べ方は汚いなと思うことだった。

洋食器のキタローに寄る。全国的にも有名な燕市にある店だ。私は記念にスプーンを求めた。新婚さんでもいたら、プレゼントすれば喜ばれるだろうが、一人暮らしの身では差し上げる人もいない。

JR燕三条駅から東京駅に戻る。浜松町駅に移動して羽田空港へ。ここで解散した。それぞれの便なので、すぐに便がある人もいた

が、私たちは約二時間待ちだった。夕食の弁当を求めて、半分食べ、残りは機内で食べた。お茶がもらえるから助かった。鹿児島空港二十時四十分着。森さんと別れる。彼女は自分の車で十五分くらいで自宅に戻るのだから羨ましい。私は鹿児島行きのバスで中央駅まで行き、それから指宿線に乗り指宿駅で下車。タクシーで帰宅したのは、翌日の零時過ぎだった。

森さんとは、秋に外国に行こうねと約束した。私のパスポートが、来年の二月には無効になるからだ。もう更新しないことに決めたからである。

老齢になり、数日の旅でも疲れるようになった。歳には勝てない。



二、日帰りツアー

六月十一日、読売旅行のツアーに参加した。鹿児島中央駅・西口（切子塔前）に七時三十分集合で三十九名の参加だった。

高速道をバスで進み、植木IC経由で水辺プラザに十一時到着。少し早めだが旬の素材を使った昼食を食べた。バイキングだったので、人の取る物を私も摂った。私は歩いて食べ物を取るのには余り好きではない。会席料理なら良いのと思ってしまふ。食後、隣の物産館で買い物をした。

玉名の高瀬裏川に行き、河畔を彩る約六万六千本の肥後しょうぶを鑑賞した。紫の花が咲きそろい目を楽しませてくれた。

桃園に移動して、一玉は自分で取ったが、六個入りのお土産をもらった。数日、自然に置いておくと、匂いが出るそうで、それを冷

やして食べると美味しいそうである。

フードパル熊本ワイン工場の見学をして試飲をした。私は甘口を少し飲んだ。植木産の果物と野菜を使ったジュースも飲んだ。バスの座席も一人で二席を使うことができたので、もらった箱を横に置いておくことが出来て助かった。もらった箱を入れるつもりで持ってきていた袋には入りきらず、箱を抱えて帰ることになった。「熊本産の桃」と書いてあるので、遊びに行ったことがばれるのだった。鹿児島中央駅に十九時頃に着いたので、指宿線が出るのを三十分も待っていた。

三、長島・水俣の旅

六月十二日、ツアーに参加した。三食つきだったので。先ず「サンドイッチとジュース」が配られた。相席の方は溝辺から乗って来ら

れた。十時三十分、黒之瀬戸大橋のだんだん市場に着いた。ここで「じゃが串と赤巻」をもらった。

久しぶりの長島である。針尾公園に行く。生憎の曇りで、展望は良くなかったが近くの諸浦島への橋が見えた。私が住んでいた頃には無くて、舟で渡っていたのだった。

長島大陸市場食堂・鰯王で「ブリづくしの昼食」だった。刺身から煮物など鰯だらけで骨をとったりしながら食べた。刺身の量も多く、食べごたえがした。

昼食後、「島美人・焼酎工場」に行く。長島には五箇所の蔵元があるそうで、芋焼酎のつくり方をスライドで説明された。ミニボトルのプレゼントもあった。

蔵之元港では、希望者はグラスボートに乗って、長島海中公園を見学されたが、私は、外国で見ていたので、参加せず海を眺めてい

た。島みかんアイスをもらったが、私は冷たい物は駄目なので隣席の方にあげた。

道の駅みなまたに行く。ここではサラダ玉葱一キロと甘夏ゼリー、あおさ海苔、メロンをもらった。土産で袋も大きくなり重くなった。

鹿児島空港近くの「ざぼんラーメン」で夕食を食べた。私は久しぶりのラーメンだった。鹿児島に住んでいた頃は、姉宅の近くに店があったので、寄っては食べていたのだった。

空港で相席の方が降りられたので、私は靴を脱いで、足を伸ばしていた。余り、歩く所は無かったのに、疲れていた。もう歳には勝てない。

二十時過ぎ、鹿児島中央駅に着いた。重い荷物を背中に背負い、駅の階段を登る。

帰宅したのは十時半過ぎだった。

(エッセイスト)